

しまね国際センター機関誌

# まいるすとんづ

MILESTONES

2022 March

79

## 特集 小さい子どもの多文化共生



しまねと世界をもっと近くに。

SIC見聞録  
みんなの母語広場

SICトピックス  
SIC訪問日本語コース  
JICA草の根技術協力事業 最終報告!  
SIC外国人留学生奨学金交付事業

SICレポート  
令和3年度国際化功労者顕彰





## 特集



まいるちゃん

小さい子どもの  
多文化共生

島根県の外国人住民数は2008年リーマンショックで一時落ち込んだものの、増加傾向にあります。それに伴って、就学前の0-5歳の外国人の子どもも増加しています。(2015年6月末150人、2018年6月末219人、2021年6月末282人、法務省在留外国人統計)。そのような状況を踏まえ、当センターは就学前の子どもの国際交流や多文化共生への関心を育むことを目的に、保育所等で外国紹介・文化体験事業を開催しました。その様子を紹介します。また、外国人住民が働く保育園や県内で外国人住民が最も多い出雲市の取組を紹介します。

就学前の小さい子どもの多文化共生について考えてみませんか。

※ここでは、幼稚園・認可保育所・認定こども園等の教育施設・保育施設をあわせて「保育所等」と記載しています。

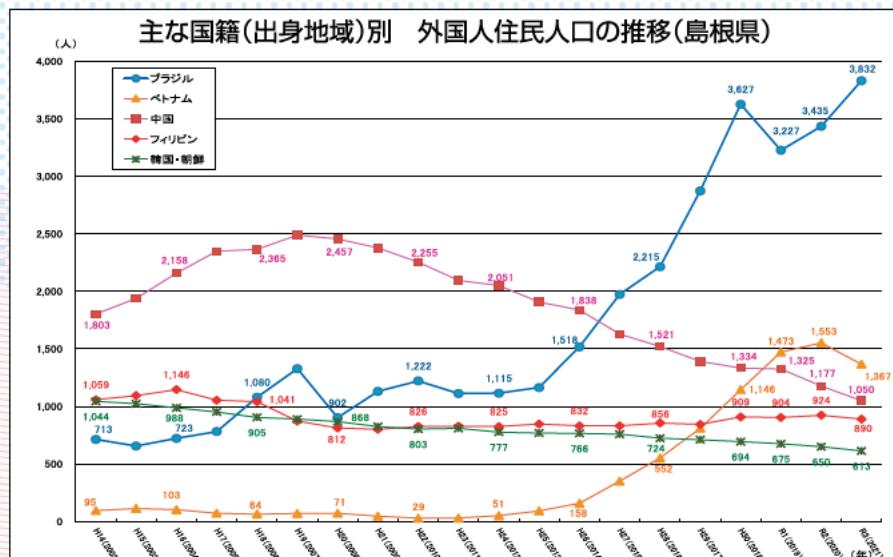
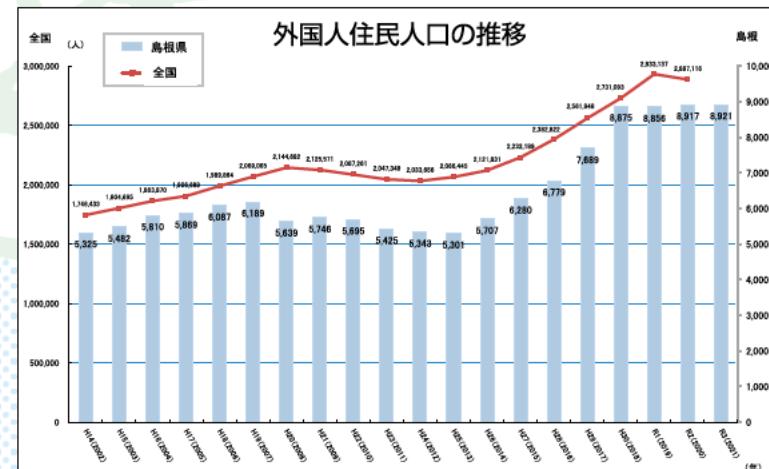
## 外国人住民の状況

2021年12月末現在、島根県には、8,921人の外国人住民が暮らしており、県民人口の約1.3%を占めています。外国人住民数は、2013年から2018年まで、企業の事業拡大や人手不足などを背景にして急激に増加していましたが、2019年以降横ばいの状況となっています。

出身地別に見ると、最も多いのはブラジルの3,832人で、外国人住民全体の約43%を占めています。次いでベトナム1,367人、中国1,050人、フィリピン890人の順となっています。このうち、前年比ではブラジルだけ増加し、ベトナム、中国、フィリピンは減少しています。アジア地域の出身者が一定の割合を占める一方で、全体では約70の国・地域の外国人住民が暮らしています。

滞在目的別に見ると、「永住者」や「定住者」など、日本に長期滞在が可能な在留資格を持つ外国人住民が7割近くを占めており、定住化が進展している状況です。

市町村別に見ると、最も多いのは出雲市4,886人、次いで松江市1,462人、浜田市554人となっています。外国人住民比率が最も高いのは、吉賀町の約2.9%、次いで出雲市の2.8%、江津市の約1.3%です。



島根県文化国際課調べ

注1)各年とも12月末の数値

注2)平成23年(2011年)以前の数値は外国人登録者数

注3)全国は法務省の在留外国人統計を引用

# アンテナサロンの紹介

出雲市の保育園と江津市こども園で、就学前の小さい子どもを対象に、外国の手遊びうたやダンス、クイズや絵本の読み聞かせ等を通して外国文化に触れ、国際交流や多文化共生への関心を育むことを目的としたアンテナサロンを開催しました。

## 1.「外国のうたやダンスであそぼう！」(出雲)



フィリピン・中国・ブラジル

開催日：9月29日（水）10:00～11:30

会場：あすなろ第2保育園（出雲市）

参加人数：4歳児クラス 約45人、5歳児クラス 約45人



フィリピン・中国・ブラジルの挨拶、文化紹介



中国の子ども向け民族衣装、子どもたちから「かわいい～」と声があがりました

### ■当日の内容

1.世界のことばで「こんにちは」(挨拶紹介)

2.外国の手遊びうた・ダンス

「Head,Shoulders,Knees and Toes」(フィリピン)、  
「宝贝宝贝」(中国)、子ども向けサンバ(ブラジル)

3.生き物の鳴き声クイズ(5歳児のみ)

### ■先生の感想

・とても新鮮で、このような活動が広がることで外国の方への親しみが持て、気軽に話せるようになると思いました。

・小さいころからいろいろな国、人、文化があるということを知ることができるのはいいなと思いました。



頭にティッシュをのせて、ブラジルサンバ！  
ティッシュを落としたら負け！

### ■当日の様子

はじめに、各国の言語で自己紹介とよく使われる挨拶の紹介を行いました。聞いたことのない言葉にきょとんとする子どもや、ポルトガル語での挨拶を聞き、「ブラジル！！」と目を輝かせるブラジルにルーツをもつ子どもの姿などがありました。

また、中国・フィリピンで人気の手遊びうたやダンスを踊ったり、ブラジルの子ども向けサンバを踊ったりして交流しました。色々な生き物の鳴き声を各国の言語で紹介する「鳴き声クイズ」では、同じ生き物でも国によって鳴き声の表し方が違うことに驚いたり、珍しい音の響きに笑ったりと楽ししく参加していただきました。

## 2.「外国の絵本やダンスであそぼう！」(江津①)



ロシア・中国

開催日：11月8日（月）10:00～11:30

会場：あさりこども園（江津市）

参加人数：0～2歳児クラス 16人、3～5歳児クラス 38人

### ■当日の様子

ロシアと中国の民族衣装に身を包んだ講師のお二人から、ロシア語と中国語での挨拶を教えていただきました。また日本でもおなじみのロシア絵本「おおきなかぶ」をロシア語と日本語で読んでもらい、いつもとは違う言葉の響きにじっと耳を澄ます子どもたちの姿が印象的でした。各国の子ども向けダンスは大盛り上がり！最後は中国語とロシア語で、じゃんけんをしました。

### ■先生の感想

・よく知った絵本を異なる言葉で聞けたのが良かったです。

・子ども達もとても楽しそうでした。いつもと違う言葉を真剣に聞いている姿が印象的でした。様々な方と触れ合うことの大切さを感じました。

・外国の方を身近に感じる事ができました。もっといろんな国の方と触れ合いたいです。

### ■当日の内容

1.世界のことばで「こんにちは」(挨拶紹介)

2.絵本の読み聞かせ(ロシア語・中国語・日本語)

「にわとりリヤーバ」、「おおきなかぶ」、「野性の動物」など

3.外国の手遊びうた・ダンス

「跳 跳 跳」(中国)、「あひるの子のダンス」(ロシア)

3.動物の鳴き声クイズ(3～5歳児のみ)

4.外国語でじゃんけん



中国語で絵本を読みました



おなじみの絵本「おおきなかぶ」をロシア語で…



中国語でじゃんけん「剪刀石头布！」

### 3.「世界にふれてみよう！～ロシア・中国・タイ～」(江津②)



ロシア・中国・タイ

開催日：12月10日（月）10:00～11:00

会場：さくらこども園（江津市）

参加人数：2～5歳児クラス 41人

#### ■当日の様子

近隣の地域にお住まいのロシア・中国・タイ出身の方に講師をお願いし、各國の言葉や文化などを紹介していただきました。3か国の鮮やかな民族衣装に、子どもたちの目もくぎ付け！各國の言葉で絵本を読んでもらったり、ダンスやタイの子どもに人気の遊びをご紹介いただいたりして交流しました。

「モーンソーンバー」  
(ハンカチ落とし)

#### ■今回の内容

- 世界のことばで「こんにちは」(挨拶紹介)
- 絵本の読み聞かせ(ロシア語・中国語・タイ語・日本語)  
「おおきなかぶ」「野性的動物」、「あかまるちゃんとくろまるちゃん」
- 動物の鳴き声クイズ
- タイの遊び「モーンソーンパー」(ハンカチ落とし)
- 外国の手遊びうた・ダンス  
「あひるの子のダンス」(ロシア)



中国・タイ・ロシアの民族衣装で登場!

最後に子どもたちから素敵な  
プレゼントをいただきました♪

#### ■先生の感想

- 職員からは伝えられない言葉の発音や雰囲気を、実際に子どもたち自身が体験できたことがとても良かったです。色んな国の人が多いということを知っているのと、体験しているのとでは大きく違うと思います。
- 違う国の人で本物の人\*が来たの初めてだね」と子どもが言っていました。どんな言葉で話すのだろうと、すごくよく聞いていたのが印象的でした。活動の様子の写真を展示していたら、子どもが保護者に「これ見て！」と見せていました。（\*普段は先生が外国の衣装などを着て紹介しているとのことです。）



指差しコミュニケーションシート

## 出雲市の取組

出雲市には、県内で最も多くの外国人が住んでおり、特にブラジル国籍の人が多いです。外国にルーツをもつ就学前の子どもも多く、出雲市内の幼稚園、認可保育所及び認定こども園に在籍している外国籍の子どもは93人、うちブラジル国籍の子どもは69人となっています。(2022年2月現在、出雲市)。増加している外国にルーツをもつ就学前の子どもへの保育所等の支援について、出雲市の取組を紹介します。

出雲市は、多文化共生のまちづくり促進事業(一般財団法人自治体国際化協会)の助成金を利用し、3か年事業を実施しています。

#### 子育て多文化支援事業(2019)

(1)母語が日本語ではない外国人保護者に対して保育所・幼稚園からの連絡事項をわかりやすく伝えるため、多言語文書作成ツールを作成しました。

(2)保育所・幼稚園で日本語理解が難しい外国人保護者との意思疎通のため、指さしによる情報伝達をするためのシートを作成しました。(上写真:指差しコミュニケーションシート)



#### 幼稚園保育所職員等の多文化保育スキル向上事業(2020)

やさしい日本語・ポルトガル語等を学ぶ講座を開催したり、コミュニケーション支援員を派遣し、保育士・幼稚園教諭のコミュニケーションスキルの向上を図りました。

#### 幼稚園・保育園職員等の多文化保育スキル向上事業(2021)

(1)2019年度に作成した指差しコミュニケーションシートについて、保育所・幼稚園からアンケートを取り、新たなシートの作成、増刷をしました。

(2)2020年度に実施したコミュニケーション支援員の派遣を引き続き実施し、保育士・幼稚園教諭のコミュニケーションスキルの向上を図りました。

#### 出雲市担当者のコメント

2021年度は当初、多文化保育の先進地事例を学ぶ研修会などを計画しておりましたが、市内はもとより県内全域における新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い、開催を中心止せざるを得ませんでした。保育士・幼稚園教諭が多文化保育の先進地事例を学べる機会を、今後検討していきたいです。

# インタビュー～保育園で働く外国人～

出雲市にあるわたりはし保育園では、日系ブラジル人の横田アギネスさんが働いています。園長先生とアギネスさんに、保育園の様子やアギネスさんの仕事についてお聞きしました。



おかざき

## 岡崎園長先生

### —わたりはし保育園はどのような保育園ですか？

園児は、150人在籍していて、そのうち外国にルーツをもつ子どもは7人です。職員は、39人です。

2015年保育園の新築移転で定員が増え、外国にルーツをもつ子どもを受け入れるようになりました。当時は7人くらいでした。国際色豊かな保育園というわけではないですが、ブラジルの人が口コミで来てくれました。当時の子どもたちは小学生になって、今はその弟妹が入園してきています。

保育園では、外国にルーツをもつ子どもがいて、読み聞かせ活動や子どもの言語の獲得の研究に力を入れています。

### —横田アギネスさんが働くことになった経緯は？

アギネスさんは、保育園に通園している家庭のベビーシッターなどをしていた、知り合いでした。その後、日本語指導補助員として出雲市内の小学校で活動されました。お子さんが生まれたこともあり、2020年4月から保育園で働いています。ブラジルでは専門の資格を持っているとのことで適任でした。

### —アギネスさんの主なお仕事は何ですか？

アギネスさんは、保育助手として担任や副担任のサポートをしています。主に日本語ができないブラジルの子どもが在籍している年中組で、言語サポートをしています。ほかのクラスでもおたよりを翻訳したり、連絡ノートをポルトガル語で代筆したりしています。

ほかにも、ブラジル人が保育園に来るときには、保育園の説明をしたり、先生の話の通訳をします。保護者からの苦情も受けます。苦情にはブラジル人ならではの内容もあり、アギネスさんに話してもらうことで納得してもらいやすいと感じています。また、行事の連絡・確認やトラブル対応などの保護者の支援をしています。

### —外国人が保育園で一緒に働くというのはどうですか？

子どものうちに積極的に価値観の異なる人に触れ合うことが大切と考えています。外国にルーツをもつ子どもや職員がいることで、様々な価値観に触れることができ、いい影響があると思います。

## よこた 横田アギネスさん

### —ブラジルで保育の勉強をしましたか？

ブラジルの大学で保育と小学校教育について学びました。ブラジルの小学校の教員免許と保育の免許を持っています。

### —保育園で働く前は何をしていましたか？

出雲市ではNPO法人の活動でポルトガル語教室をやったことがあります。出雲市の小学校で日本語指導補助員として3年間働きました。子どもが生まれて小学校に復帰しましたが、次の年からわたりはし保育園で働くことになりました。

### —保育園の仕事はどうですか？

小さい子どもが大好きで、子どもと遊んだり話したりできて楽しいですし、ブラジルで勉強したことが活かせるので嬉しいです。

### —仕事で大変なことはありますか？

仕事で大変なことは、保護者の対応です。日本のことを探らない保護者さんが多いので、保育園のルールや日本の文化を説明します。

### —子どもたちの様子はどうですか？

子どもに私の日本語が変と言われます。英語が話せるので、少し英語を話すと子どもにすごいと言われます。日本語が上手ではないけど、英語やポルトガル語も使って、楽しんでいます。あと、スキンシップはブラジルの子どもとブラジルの方法ですると、同じようにする日本の子もいます。

### —翻訳などもたくさんすると聞きましたが、大変ですか？

おたよりなどの翻訳がありますが、分からぬ日本語がないか、先生がいつも気にかけてくれていて優しいです。



アギネスさんと楽しく遊ぶ子どもたち

インタビュー中もずっと笑顔だったアギネスさんは、仕事を本当に楽しんでいる様子でした。これからも地域での活躍を期待しています。



えすあいしー

# SIC児童録

けんどうろく



## みんなの母語広場

たなか なおみ  
代表 田中 奈緒美

中国式ドッヂボールはお手玉がボールです

「みんなの母語広場」は、中国にルーツを持つ子どもの保護者を中心としたグループで、主な活動として、中国語母語教室と中国文化交流活動を行っています。

中国語母語教室は、親などが中国人である子どもを対象に、多文化交流拠点「古民家上手」をお借りして月2回開催しています。家庭によっても異なりますが、子どもたちの多くは日常生活で中国語を使う機会がほとんどないため、中国語を話すことができません。飽きっぽい子どもたちを相手に、島根大学の中国人留学生たちが、ゲームや工作を取り入れながら、毎回楽しく教えてくれています。月2回ではなかなか中国語は伸びませんが、同じ背景を持つ子ども同士で友だちになったり、大学生のお兄さんお姉さんを通じて文化や風習に触れたりすることで、中国への理解を深め、自身のアイデンティティに誇りを持つことにつながればという期待を持って、教室を続けています。

中国文化交流活動は、地域の方々などより広い範囲のみなさんに中国文化を発信することで相互理解を深めるとともに、私たちの活動について知ってもらえばという思いから、年に数回行っています。2021年11月には、他の多文化共生活動を行う団体と協力して「中国式ドッヂボール大会」を開催し、約60名の方にご参加いただきました。今後も、周りの方々のご協力を得ながら、スポーツなど子どもも大人も楽しめる活動を通じて、身近な多文化交流の輪を広げていきたいと思っています。



中国式ドッヂボール大会参加者のみなさん

## SICトピックス

### SIC訪問日本語コース



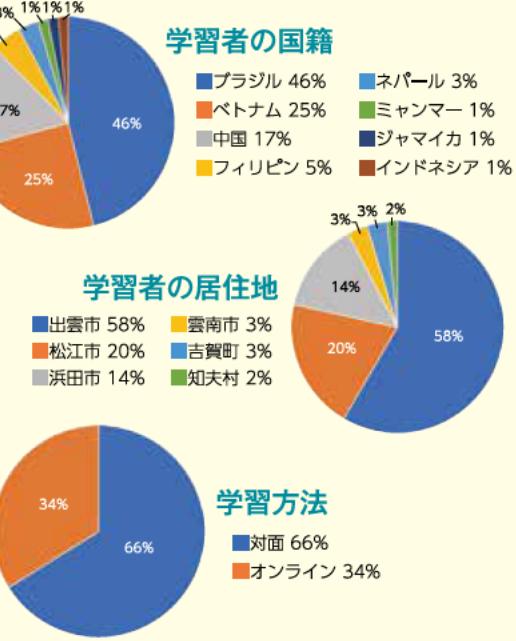
今年度で4年目を迎えた「SIC訪問日本語コース」。<地域訪問型><企業訪問型>の2つのうち、<地域訪問型>は、日本語を学びたい外国人住民が個人で申込みをし、入門レベルの日本語でのコミュニケーションを無料で学ぶことができます。使用する教材は、このコースのために作成したオリジナル教材『となりでにほんご』です。今年度から、オンライン学習も始まり、夜間や休日を希望する人、近くに日本語パートナー\*がいない人も学習しやすくなりました。今年度の学習者は65人でした。対面でも、オンラインでも、同じ島根県に住む住民同士の日本語での交流が広がっています。

\*SIC訪問日本語コース<地域訪問型>で活動するボランティアを、日本語パートナーと呼んでいます。

### 参加者の声

#### 学習者 オゴシ さん(出雲市、ブラジル)

このコースをとても気に入りました。テキストは、とてもわかりやすく作られていて、たくさんイラストも載っていて良かったです。私は、赤ちゃんが生まれたばかりで、外出が難しいので、オンラインで自宅で勉強できるというのはすごく良かったです。



#### 日本語パートナー 三浦 さん(浜田市)

オゴシさんが熱心で、スムーズに進んだので、毎回、フリートークができました。ブラジルや島根の名所や料理、行事などをお互いに紹介しあって楽しかったです。オンラインだから出雲に住むオゴシさんと出会えたし、画像や翻訳アプリが活用できたので、便利だったと思います。

# SICトピックス



## JICA草の根技術協力事業 最終報告!

<第1次プロジェクト>サンパウロ州小学校教員の環境教育指導力向上事業  
 <第2次プロジェクト>サンパウロ州カサパーーバ市における環境教育推進事業

2014年8月からカサパーーバ市で始めた環境教育プロジェクトが2021年6月末で終了しました。足掛け7年にわたる活動の総括をご報告します。

7年間を振り返って最も進展があったのは、第1次プロジェクトから精力的に取り組んだカサパーーバ市の市立小学校の環境教育です。プロジェクト開始当初の環境教育は、熱意ある一部の先生の裁量でアトランダムに行われている状況でしたが、全学年の環境学習カリキュラム（単元計画・指導案）の策定や、授業の改善指導により教師の指導力が向上し、市立小学校の全ての児童が体系的継続的に環境教育を学べるようになりました。また、多くの小学校で学校菜園づくりや使い捨てカップ廃止等の環境保全活動が実施されました。

第2次プロジェクトでは、市民向けの環境教育にも取り組みました。一つは、モソタ環境教育センターの整備で、各種施設の整備・拡充や主催事業の充実化により、名実ともに市の環境教育の拠点と言えるようになりました。

もう一つは、市民向け環境教育プログラムの開発で、当初計画5件を大きく上回る12件が開発され、2019年までには、100名を超える市民が受講しました。

このように順調に進展してきたプロジェクトでしたが、2020年からはCOVID-19の蔓延による小学校の長期休校や対面集合型の事業の禁止等により、多くの活動が中断や変更を余儀なくされました。とりわけ、プロジェクトの集大成として計画していた市民向けの啓発事業である環境フェスティバルは、1年延期した後、2021年6月にオンラインで実施しました。（詳細は下の枠内）

カサパーーバ市の環境教育は7年間にわたるプロジェクトにより大きく進展しましたが、私たちがさらに目指したことは、環境に対する知識や理解が人々の行動変容に繋がることでした。これに関し、ある小学校での事例を紹介します。

3年生の環境学習が契機となり、児童の提案で学校近隣地の不法投棄ゴミを片づける計画を持ち上りました。それを聞いた保護者や市、企業の支援の輪が広がり、皆で不法投棄ゴミを清掃し、そこに花や木を植えたのです。さらに、この活動により住民の環境意識が高まり、地域の美化が進んだのです。これはまさに、小学校の環境教育が家庭や地域を巻き込む形で実際の環境活動に発展した事例です。カサパーーバ市でこうした活動が数多く生まれることを期待しています。

また、プロジェクトメンバーが中心となって進めてきた「環境教育推進法」がまもなく市議会に提案されると聞いています。これは、プロジェクトの波及効果と言えるものであり、制定のあつきには、カサパーーバ市の環境教育推進に大きな役割を果たすと考えています。

私たちはお互いに、言葉、時差、距離の壁を乗り越え、生活環境、教育制度、仕事の進め方等の違いに、時には戸惑いながら相互理解を深めつつ信頼関係を築いてきました。

プロジェクトは終了しましたが、環境教育が結ぶ縁（えにし）は、これからもずっと続いていきます。



環境フェスティバル～動画撮影の様子



環境学習カリキュラム



環境教育プログラム：五感を使って自然を体験しよう！

## カサパーーバ市環境フェスティバル

5日間にわたり、Youtubeで毎日1本の動画を配信しました。島根の専門家は事業の成果やメッセージを録画配信しました。

**期間等** 2021年6月21日(月)～25日(金) (現地時間) 20:00-20:40 (40分)

**内 容** ①開会挨拶 (JICAブラジル事務所長、有馬プロジェクトマネージャーほか)

②島根側スピーチ：「環境教育が結ぶ日本とブラジル

～カサパーーバ市からサンパウロ州へ、発展を願って～」

プロジェクトの概要説明、カサパーーバ市での活動について

③プロジェクトメンバー座談会@モソタ環境教育センター

④プロジェクト参加校からの報告 (児童・教師)、和太鼓

⑤現地アーティストパフォーマンス、閉会セレモニー

動画  
QRコード



1日目



2日目



3日目



4日目



5日目





## SIC 外国人留学生奨学金交付事業

今年度は12名の奨学生を選考し、奨学金交付決定通知書授与式は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一堂に会すことなく分散して取り行いました。

また、11月から開始した寄附金募集では、約205万円の寄附がありました。コロナ禍が続き困窮する私費留学生の皆さんに、多くの方々からご支援をいただいたことに、改めてお礼を申し上げます。



島根大学(松江キャンパス)にて



## SIC Report エスアイシー・レポート

### 令和3年度国際化功労者顕彰

国際交流や国際協力、多文化共生など、島根県の国際化に尽力され、その功績が特に顕著な個人・団体を顕彰することを目的に、平成10(1998)年度から国際化功労者顕彰を行っています。

令和3(2021)年度は、次の1団体に表彰状が授与されました。



★日本語交流クラブ GOTO☆ワンハート(代表 山藤 美之 様)〈江津市〉

《ご功績》 平成16(2004)年4月の設立以来、国籍や年代が異なる人同士が言語や文化の違いを互いに認め合い、共に健康的で豊かな生活ができる地域づくりのために、日本語教室の運営や、交流イベントの開催、地域イベントへの参加など、国際理解・交流活動を行ってきた。また、過疎化が進む地域のコミュニティ活動に若年世代の外国人を参加させることで、長年にわたり多文化共生社会の実現に寄与した。

左から江津市政策企画課より森下主任、横田課長、受賞した日本語交流クラブGOTO☆ワンハートよりライ・チ・トゥー様、山藤千世子副代表、しまね国際センター野津理事長

#### お知らせ

賛助会員、ボランティア登録者のみなさまへ

ご住所などご登録情報が変更になった場合には、当センターへご連絡ください

公式SNSアカウントで、多文化共生、国際交流、SICに関する情報を発信しています。ページや投稿のフォロー、いいね、シェアをよろしくお願いします!

Facebook(フェイスブック)

アカウント名:しまね国際センター Shimane International Center

アカウントURL:<https://www.facebook.com/shimaneinternationalcenter/>



Instagram(インスタグラム) 名前:しまね国際センター

ユーザー名:shimane\_international\_center

アカウントURL:[https://www.instagram.com/shimane\\_international\\_center/](https://www.instagram.com/shimane_international_center/)



メールマガジンは、2022年3月で配信を終了いたしました。長年メールマガジンにご登録いただきありがとうございました。

## (公財)しまね国際センター [しまね外国人支援センター・しまね国際研修館]

T690-0011 島根県松江市東津田町369番地1

TEL : 0852-31-5056

FAX : 0852-31-5055

[ホームページ] <https://www.sic-info.org>

[E-mail] [admin@sic-info.org](mailto:admin@sic-info.org)



#### ★編集後記

コロナ禍で研修や会議をオンラインで開催するようになりました。国際交流事業もオンラインで開催し、参加者は楽しみましたが、最後の感想はやっぱり「実際に会えたらしいね」と。ちょうどコロナの感染状況が落ち着いたときに、保育園で外国に触れるイベントを開催でき「対面」の良さを実感しました。⑦

#### 【西部支所】

T697-0016 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人 島根県立大学内

TEL : 0855-28-7990

FAX : 0855-28-7991

[E-mail] [hamada@sic-info.org](mailto:hamada@sic-info.org)

#### まいるすとんざ MILESTONES

Milestone(s) [まいるすとん(ず)]とは道標、または画期的なできごとという意味があります。センターの設立、活動が島根県の国際化の歩みの中で意義深いものとなり、この機関誌が一つの道標としてお役に立てればと名付けられました。